

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100313		
法人名	(株)イービーエーサービス		
事業所名	グループホームおおさとの憩		
所在地	山梨県甲府市大里町3375-1		
自己評価作成日	平成26年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着の特性を生かし地域の行事に積極的に参加し、実習生、ボランティアの受け入れをして利用者と共に楽しく、自分らしく、生き生きと生活出来る環境作り心掛けております。介護付有料老人ホームと併設し毎年夏祭りや年間行事では合同で実施し、地域の方々の憩の場になっております。毎回参加して頂き馴染の関係が気付けています。おおさとの憩に入所して毎日が楽しく、笑いの多い生活が来ています。おおさとの憩独自で作り上げた理念「笑顔の輪」「地域の輪」「言葉の愛」に沿った支援を行い生活環境が良質のサービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、全国40か所に福祉用具リース、薬、医療機、介護施設、老人ホームなど幅広いの社会福祉事業を展開する会社組織の、傘下のグループホームである。芝生の広い日本庭園の中庭は松などの植木が並び、季節の花々を眺めながらのんびりと散歩が楽しめる。室内は広々とした明るいロビーで吹き抜けの天井が居心地の良い空間を醸し出している。白を基調とした室内に和紙の電灯と利用者の作品が整理して飾られ、玄関のお雑様はももの節句の季節が感じられる。利用者の日々の様子を知らせてもらえるようブログを立ち上げるなど新しいことにも取り組んでいる。顔馴染みの職員が声をかけながら支援に励む様子が家族のように温かく利用者からはほんのりとするやすらぎが感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームおおさとの憩

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)	ユニット名(梅)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社統一の理念とおおさとの憩の理念があり朝の申し送り時、職員全員で唱和し意識確認している。	会社統一の理念とおおさとの憩の理念があり朝の申し送り時、職員全員で唱和し意識確認している。	職員全員で考えた独自の理念「笑顔の和、地域の輪、言葉の愛」を共有し朝の申し送りに、唱和して実践に繋げている。フロアにも掲示しいつも確認し「上から目線ではなく思いを汲んで支援する」ことを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	大里地区の行事を民生委員の方や社会福祉協議会の委員の方々からお誘いがあり地域の行事に参加している。側溝掃除、運動会、文化祭、ふれあいサロンなど。	大里地区の行事を民生委員の方や社会福祉協議会の委員の方々からお誘いがあり地域の行事に参加している。側溝掃除、運動会、文化祭、ふれあいサロンなど。	自治会に加入しているためゴミの日などは近所の人と一緒に掃除に参加する。地区の運動会はグループホームのテントが用意され住民としてのふれあいを楽しんでいる。地域の様々なボランティアグループが定期的に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の会議に参加したり、公園の草取りなど奉仕活動に参加して、近所の方々との関わりを大切にして認知症の理解を深めている。	民生委員の会議に参加したり、公園の草取りなど奉仕活動に参加して、近所の方々との関わりを大切にして認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施日の実施日の案内をご家族、民生委員、地域包括、オーナー等に参加をお願いしている。議題を決め家族や職員、推進員との意見交換している。	運営推進会議実施日の実施日の案内をご家族、民生委員、地域包括、オーナー等に参加をお願いしている。議題を決め家族や職員、推進員との意見交換している。	2か月に1度家族の希望により土曜日の昼間に開催している。終了後に次回の日程を決めて全家族に報告と案内文を出している。学習会を持ったりテーマを出して利用者と家族の意見も聞いて進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当、地域包括支援センター職員と連携を取り、運営推進会議の内容、おおさと新聞を甲府市に提出し情報の共有、指導を仰ぎ交流を深めている。	市町村担当、地域包括支援センター職員と連携を取り、運営推進会議の内容、おおさと新聞を甲府市に提出し情報の共有、指導を仰ぎ交流を深めている。	常に地域包括と密に連絡を取り合っている。市とは生活保護受給者の状況の把握のため2か月に1度訪問調査に来る機会に話したり、福祉課にお便りと運営推進会議の議事録を手渡すために足を運ぶなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回会議を持ち、ケアの見直しや身体拘束、言葉のロック等をしていない介護「身体拘束ゼロ」に取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回会議を持ち、ケアの見直しや身体拘束、言葉のロック等をしていない介護「身体拘束ゼロ」に取り組んでいます。	虐待防止委員会を設置して小さな事でも問題に取り上げ解決するように務めている。「ちょっと待って」を使わない拘束ゼロの取り組みは会社の方針である。職員全員で注意しあって支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コンプライアンス委員会は年間議題がありその議題に添ってフロア会議のなかで意識強化を図りケアの向上や虐待を見逃さないネットワーク作りをしている。	コンプライアンス委員会は年間議題がありその議題に添ってフロア会議のなかで意識強化を図りケアの向上や虐待を見逃さないネットワーク作りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している方はいないが定期的な勉強会を行い権利擁護に关する内容の理解・活用例などを勉強している。相談があった場合等いつでも説明や助言が出来るようにホームの支援体制を整えている。	現在は成年後見制度を利用している方はいないが定期的な勉強会を行い権利擁護に关する内容の理解・活用例などを勉強している。相談があった場合等いつでも説明や助言が出来るようにホームの支援体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約契約書・重要事項説明書を十分に説明を行うと共に、質問等があった場合にはその都度双方で確認し合い同意を得ている。	契約時に契約契約書・重要事項説明書を十分に説明を行うと共に、質問等があった場合にはその都度双方で確認し合い同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)	ユニット名(梅)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時、その都度意見を頂くと共に玄関先には意見箱を置きいつでも記入できるようにしている。担当者を設置し速やかに対応できる体制作りや直接本社に意見が出せるような体制作りも整えている。	家族が面会時、その都度意見を頂くと共に玄関先には意見箱を置きいつでも記入できるようにしている。担当者を設置し速やかに対応できる体制作りや直接本社に意見が出せるような体制作りも整えている。	意見箱も置きいつでも意見や要望を聞ける状態にある。家族の面会時には利用者の様子を伝え希望・要望を汲み取っている。整理タンスの服の入れ替えや食事のことや腰にシップを貼ってやって欲しいなど気軽に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロア会議、定期的な個別面談・普段のコミュニケーションの中から職員の意見を聞く場を多く設け、現場の意見を多く取り入れ、円滑に運営できるように努めている。現場の声を管理者会議に提案しサービスの向上に努めている。	全体会議、フロア会議、定期的な個別面談・普段のコミュニケーションの中から職員の意見を聞く場を多く設け、現場の意見を多く取り入れ、円滑に運営できるように努めている。現場の声を管理者会議に提案しサービスの向上に努めている。	職員が元気ない様子の時はリーダー・管理者が声をかけるよう心を配っている。備品など必要な時は高額でない物は管理者の裁量で購入している。会議では職員の意見や発想を受け入れサービスの質の向上をめざす発言の場になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修、内部研修への参加やスキルアップが出来る環境作りをしている。各資格手当や人事考課を取り入れた賞与・昇給を取り入れ、能力に応じた給与体系を実施している。また、様々な講習・講習会・資格取得のための情報提供及び参加を促している。ホームの年間目標として掲げている。	外部研修、内部研修への参加やスキルアップが出来る環境作りをしている。各資格手当や人事考課を取り入れた賞与・昇給を取り入れ、能力に応じた給与体系を実施している。また、様々な講習・講習会・資格取得のための情報提供及び参加を促している。ホームの年間目標として掲げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が率先して研修に参加できるように支援し、外部研修で学んだことを内部での研修に落とし込み介護レベルの統一を図っている。	職員が率先して研修に参加できるように支援し、外部研修で学んだことを内部での研修に落とし込み介護レベルの統一を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター職員、他のグループホーム管理者や社会福祉協議会職員との情報交換を通じ事業所のレベルアップに努めている。	地域包括支援センター職員、他のグループホーム管理者や社会福祉協議会職員との情報交換を通じ事業所のレベルアップに努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者に担当を決め、本人・家族等の信頼関係の構築に努め、安心して生活できる環境づくりに努めている。	入居者に担当を決め、本人・家族等の信頼関係の構築に努め、安心して生活できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、入居者が抱えている不安などをサービスに取り入れ信頼関係づくりに努めている。	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、入居者が抱えている不安などをサービスに取り入れ信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当職員・計画担当者がアセスメント及びモニタリングを行い、確実な課題分析をし自立支援に必要なフォーマル・インフォーマルなサービスにつなげ利用者に合ったサービスが利用できるよう努力している。	担当職員・計画担当者がアセスメント及びモニタリングを行い、確実な課題分析をし自立支援に必要なフォーマル・インフォーマルなサービスにつなげ利用者に合ったサービスが利用できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の生活動作から本人の気持ちに寄り添い、その方が出来ることやしたいことを中心に共同生活住居を構築できるよう努力している。	利用者個々の生活動作から本人の気持ちに寄り添い、その方が出来ることやしたいことを中心に共同生活住居を構築できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)	ユニット名(梅)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族には、事業所内での生活状態を「おおさと」新聞に行事、連絡事項を盛り込み入居者の生活状況を伝えられるようにしている。ご家族様との接点を多く作り一緒に支えていく関係作りを行っている。	毎月ご家族には、事業所内での生活状態を「おおさと」新聞に行事、連絡事項を盛り込み入居者の生活状況を伝えられるようにしている。ご家族様との接点を多く作り一緒に支えていく関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望を聞いて、食べたい物、ドライブ、買い物、いちご狩りなど家族、地域の方々と一緒に利用者の趣味、嗜好を取り入れ広く機会を提供している。親戚や友達、家族がいつでも会いに来れる場を提供している。	利用者の希望を聞いて、食べたい物、ドライブ、買い物、いちご狩りなど家族、地域の方々と一緒に利用者の趣味、嗜好を取り入れ広く機会を提供している。親戚や友達、家族がいつでも会いに来れる場を提供している。	入居時に情報を収集し、きめ細かく把握し生活歴や環境、名前の呼ばれ方まで聞いて好むものや趣味を活かした生活リズムを持つよう支援をしている。外泊や親戚の面会の取り次ぎも時間に関係なく快く支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションを多く取って頂く様工夫し、行事や日々の生活で関わり合いを多くし、共同生活を支えるよう支援している。また本人の生活スタイルを尊重し、一人で過ごせる時間も大切にしている。	利用者同士がコミュニケーションを多く取って頂く様工夫し、行事や日々の生活で関わり合いを多くし、共同生活を支えるよう支援している。また本人の生活スタイルを尊重し、一人で過ごせる時間も大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は関係が途切れてしまいがちだがこれまでに築いた信頼関係を大切にしたい要望や相談があれば支援体制作りを努めている。	サービス終了後は関係が途切れてしまいがちだがこれまでに築いた信頼関係を大切にしたい要望や相談があれば支援体制作りを努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族に接する中で思い、意向を汲み取り職員間で共有し本人の意向に沿ったサービスを提供するように努めている。意志疎通困難な入居者様にもその方の立場に立った考え方をするように努めている。	入居者・家族に接する中で思い、意向を汲み取り職員間で共有し本人の意向に沿ったサービスを提供するように努めている。意志疎通困難な入居者様にもその方の立場に立った考え方をするように努めている。	担当者は利用者の顔色やつぶやく言葉に耳を傾け、思いに沿えるように支援している。意思の疎通が困難な利用者でも記録を残し他の職員でも解るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人や家族からアセスメントを取り情報を収集し生活歴、性格などを把握するように努めている。友人、知人から情報収集も行っている。	入居前に、本人や家族からアセスメントを取り情報を収集し生活歴、性格などを把握するように努めている。友人、知人から情報収集も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看介護記録・日報・連絡帳などで知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努める。	看介護記録・日報・連絡帳などで知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議や介護計画見直し時に、担当職員、本人家族の意見を介護計画に反映できるように努めている。本人のADLに合わせ、サービスの追加、変更を行っている。	ケース会議や介護計画見直し時に、担当職員、本人家族の意見を介護計画に反映できるように努めている。本人のADLに合わせ、サービスの追加、変更を行っている。	介護計画はケアマネジャーが日々、モニタリングを行いケア会議・フロア会議での職員意見を自分の目で確認し、家族の意向を聞き取って作成している。プランの原案の段階で医師と看護師からの情報をもらい確認を取り作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況や本人の言葉や思いを記録に残し具体的に職員間で共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。ケア実施を評価し、次の計画プランに活かしている。	ケアプランの実施状況や本人の言葉や思いを記録に残し具体的に職員間で共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。ケア実施を評価し、次の計画プランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族の要望に対して柔軟に対応するように努めている。外部サービスでヤクルト販売、訪問マッサージなどを取り入れたり、ご家族に協力していただいていた希望に沿えるように努めている。	入居者、ご家族の要望に対して柔軟に対応するように努めている。外部サービスでヤクルト販売、訪問マッサージなどを取り入れたり、ご家族に協力していただいていた希望に沿えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)	ユニット名(梅)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き、積極的に参加し、施設の行事に地域の方々を招待して交流を深めている。	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き、積極的に参加し、施設の行事に地域の方々を招待して交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医は月に2回入居者の往診をしているが、その他に地域の総合病院と連携協定書を結び、緊急時の対応が的確に行えるよう心掛けている。	内科医は月に2回入居者の往診をしているが、その他に地域の総合病院と連携協定書を結び、緊急時の対応が的確に行えるよう心掛けている。	かかりつけ医の受診は家族が付き添い受診している。看護師が情報を記入して文章で医師に渡し受診結果を頂く。緊急の時は職員が対応し受診する時もある。現在、利用者は1名を除いて月2回訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は様々な研修等に参加しスキルアップに努めている。ナースと情報共有し医療分野において相談できる環境を作っている、早期対応を心掛けている。	介護職は様々な研修等に参加しスキルアップに努めている。ナースと情報共有し医療分野において相談できる環境を作っている、早期対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には速やかに介護サマリーを作成し、医療関係者と情報交換を行い、対応している。また協力医療機関に対し、入院時の情報の提供を出来るだけ詳細に行っている。また、入院に対し定期的に様子観察するために病院へ伺い情報交換をしている。	入院の際には速やかに介護サマリーを作成し、医療関係者と情報交換を行い、対応している。また協力医療機関に対し、入院時の情報の提供を出来るだけ詳細に行っている。また、入院に対し定期的に様子観察するために病院へ伺い情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には家族の意向を十分に組み入れ、適切なケアを提供できる環境作りに努めている。	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には家族の意向を十分に組み入れ、適切なケアを提供できる環境作りに努めている。	入居時に家族と利用者に説明し話し合っている。医療行為が必要な時は医師の判断で病院に搬送されるが、利用者の身体の状況や家族の意向を確認しながら出来る限り寄り添い最大限の看取り支援に努めたい、との覚悟がありそのことについて勉強もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。また、定期的(年2回)に南消防署の協力を得て救急法や通報訓練などし緊急時に備えた研修を受けている。	緊急時のマニュアルを作成している。また、定期的(年2回)に南消防署の協力を得て救急法や通報訓練などし緊急時に備えた研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、南消防署に依頼し、避難訓練を行っており、地域の方・民生委員・地区組長に声をかけ避難訓練の参加を協力して頂ける様依頼している。火災通報装置を使い、通報訓練を実施している。	年2回、南消防署に依頼し、避難訓練を行っており、地域の方・民生委員・地区組長に声をかけ避難訓練の参加を協力して頂ける様依頼している。火災通報装置を使い、通報訓練を実施している。	年2回昼間と夜間を想定しての火災時の避難訓練と地震災害時の訓練を実施している。フロアの机の下にヘルメットを置き消火器や備蓄品も準備してある。地震時は大里小が避難場所だが、消防署の助言もあって、まず中庭に避難する方法で訓練をしている。	災害が起こった時、利用者、職員が共に速やかに対応できるよう体得するには繰り返しの訓練が大切です。日常的に訓練を重ね、避難経路や避難方法を身につけることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の運営理念を共有し、虐待防止委員会やコンプライアンス委員会を設置し、会社全体で虐待の防止に力を入れ、職員全体でマナー研修をしその方の人格を尊重して心のケアに努めている。	施設の運営理念を共有し、虐待防止委員会やコンプライアンス委員会を設置し、会社全体で虐待の防止に力を入れ、職員全体でマナー研修をしその方の人格を尊重して心のケアに努めている。	利用者の関係書類は事務所に鍵のある書棚に保管してある。個人ファイルはイニシャルで表記、ブログやお便りの写真なども個人情報の保護に留意している。利用者への接遇マナーは会社全体で取り組んでおり、職員に徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の趣向を把握し「自己決定」が出来るような声かけや支援に心がけている。入居者の担当職員がその方の思い・希望を聞いて誕生日や行事等で実施できるように支援し、自己表現を促しやすい環境作りをしている。	個人の趣向を把握し「自己決定」が出来るような声かけや支援に心がけている。入居者の担当職員がその方の思い・希望を聞いて誕生日や行事等で実施できるように支援し、自己表現を促しやすい環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)	ユニット名(梅)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個人のその日の状態に応じて柔軟に変化させて穏やかに過ごして頂けるよう努めている。入居者の思いや希望を大切に、自己表現をしやすいよう心掛けて支援している。	入居者の思いや希望を大切に、自己表現をしやすいよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活チェック表を作成し、毎日清潔保持に努めている。入居者に職員がお化粧や整髪して生活に活力が出るように努力している。	生活チェック表を作成し、毎日清潔保持に努めている。入居者に職員がお化粧や整髪して生活に活力が出るように努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人用の食器を用意し、配膳、下膳、食器洗いや食器拭きなど、その方の能力に合わせて支援し献立上の記録は、入居者が毎日書いている。	個人用の食器を用意し、配膳、下膳、食器洗いや食器拭きなど、その方の能力に合わせて支援し献立上の記録は、入居者が毎日書いている。	本社から栄養士が立てた献立表が届く。食材は発注すると業者から届くが、行事食や誕生日、おやつなどを作る時は買い物に行く。調理から片付けまで利用者も活き活きと行い、毎食、職員と一緒にテーブルを囲み楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立があり、それに沿って食事の提供を行い、また行事などで入居者の希望を聞いて提供し、水分については日中・夜間時の水分、食事をチェックしている。	栄養士の作成した献立があり、それに沿って食事の提供を行い、また行事などで入居者の希望を聞いて提供し、水分については日中・夜間時の水分、食事をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は実施して頂き、介助が必要な方については、職員は毎食後口腔ケアを行っている。また内容については、歯科医と連携をとり、意識の向上に努めている。	自分でできる方は実施して頂き、介助が必要な方については、職員は毎食後口腔ケアを行っている。また内容については、歯科医と連携をとり、意識の向上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、入居者の生活リズムに合わせた時間にトイレ声掛け誘導をし、トイレで排泄してもらおう様支援している。昼間は、全員トイレで排泄し、おむつやパットの使用を減らせるよう全体会議で統一している。	排泄チェック表を作成し、入居者の生活リズムに合わせた時間にトイレ声掛け誘導をし、トイレで排泄してもらおう様支援している。昼間は、全員トイレで排泄し、おむつやパットの使用を減らせるよう全体会議で統一している。	立位が取れない方でも職員二人で対応し、ほとんどの利用者がトイレでの排泄を行ないパットの使用量を減らしている。排泄チェック表を記入して排泄パターンを把握して声掛け、トイレ誘導をし、根気強く支援にあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩の声掛け、体操の時間を定期的に作ることで、便秘防止に努めている、また、食事内容、おやつ等も工夫している。	散歩の声掛け、体操の時間を定期的に作ることで、便秘防止に努めている、また、食事内容、おやつ等も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り入居者の希望に沿った入浴に努めている。入浴時、足浴しながら体を洗って浮腫対策をしている。夏。冬の入浴内容を入居者に確認してもらいながら楽しんでいる。	出来る限り入居者の希望に沿った入浴に努めている。入浴時、足浴しながら体を洗って浮腫対策をしている。夏。冬の入浴内容を入居者に確認してもらいながら楽しんでいる。	毎日の入浴もできるが最低でも週2回の入浴をしている。体調に合わせて足浴、シャワーなど取り入れたり入浴剤を使い気分を変えるなど工夫している。横扉のある特殊浴槽は筋力の弱った利用者には入りやすく便利になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況に即した就寝をして頂ける様、寝る前にお茶を飲みながらテレビ鑑賞などをして介護者が就寝の介助に努めている。	生活状況に即した就寝をして頂ける様、寝る前にお茶を飲みながらテレビ鑑賞などをして介護者が就寝の介助に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が一元的に管理をし、薬の内容については全体会議や研修を通し知識の習得に励んでいる。服薬については、服薬チェック体制を強化し誤薬防止マニュアルを作成し職員全体で取り組んでいる。	看護師が一元的に管理をし、薬の内容については全体会議や研修を通し知識の習得に励んでいる。服薬については、服薬チェック体制を強化し誤薬防止マニュアルを作成し職員全体で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)	ユニット名(梅)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	サークル活動を充実させるよう会議で検討をしている。入居者の嗜好調査をし、喜んで頂ける様心掛けています。	サークル活動を充実させるよう会議で検討をしている。入居者の嗜好調査をし、喜んで頂ける様心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の内容によりボランティアの方の受け入れで同敷地内の有料老人ホームと連携して入居者が外気浴が多くている様支援し、シフトの調整を図り、お風呂、いちご狩り、外食、出前など希望に沿う様、努力している。	行事の内容によりボランティアの方の受け入れで同敷地内の有料老人ホームと連携して入居者が外気浴が多くている様支援し、シフトの調整を図り、お風呂、いちご狩り、外食、出前など希望に沿う様、努力している。	事業所の中庭は庭園になっており、四季折々の花が楽しみ、ここを散歩をしたりすぐ近くの土手下に桜や季節の花を楽しむため周辺に出掛けている。年間行事に添って家族や民生委員の方やオーナーと一緒にイチゴ狩りやぶどう狩り、温泉にも出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者のみ財布を持ち、買い物や外出時に支払っている、その他の入居者は、施設が立替をし、必要な品を買う環境の提供をしている。	金銭管理ができる入居者のみ財布を持ち、買い物や外出時に支払っている、その他の入居者は、施設が立替をし、必要な品を買う環境の提供をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が出来る環境にあり、家族からの手紙、電話を取り次いでいる、入居者の心身状況に沿って支援している。また携帯電話を所持している入居者には充電管理・着信の有無などの支援もしている。	電話が出来る環境にあり、家族からの手紙、電話を取り次いでいる、入居者の心身状況に沿って支援している。また携帯電話を所持している入居者には充電管理・着信の有無などの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下・リビングには季節感ある飾り付けを行い天気の良い日は窓を開け風通しをよくして季節を感じてもらえるようにしている。行事の写真や入居者の方々の手芸作品や俳句等を展示したり、野菜や花など植えて季節を感じてもらったり、テラスで過ごしたりしている。	玄関や廊下・リビングには季節感ある飾り付けを行い天気の良い日は窓を開け風通しをよくして季節を感じてもらえるようにしている。行事の写真や入居者の方々の手芸作品や俳句等を展示したり、野菜や花など植えて季節を感じてもらったり、テラスで過ごしたりしている。	吹き抜けの天井から和紙の細長いランプシェードが柔らかく暖かみを感じさせる。ロビー、廊下、トイレは車いすが自由に通れる広さがあり、テーブルの曲線やイスの高さなど工夫され、洗面台の高さも使い易くなっている。壁の飾りつけは季節感、生活感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前、ホールに長椅子を設置し、コミュニケーションを取れる空間を作るとともに、テラスから畑や中庭の花々を見て癒しとなるよう工夫している。入居者の居心地のよ場所を過ごせる様に空間作りを行っている。	玄関前、ホールに長椅子を設置し、コミュニケーションを取れる空間を作るとともに、テラスから畑や中庭の花々を見て癒しとなるよう工夫している。入居者の居心地のよ場所を過ごせる様に空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものを置いたり、趣味の物を展示したりして生活に活気が出るように工夫している。家族の希望があれば宿泊もできる体制になっている。	馴染みのあるものを置いたり、趣味の物を展示したりして生活に活気が出るように工夫している。家族の希望があれば宿泊もできる体制になっている。	洋室と和室の部屋がある。引き戸の入り口には表札と和紙で折った壁飾りがある。使い慣れた整理タンス、洋服が掛けてあり馴染みの部屋に近づけるよう配慮している。習字や作品、家族の写真が貼られそれぞれ自分らしい部屋づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的に高齢者が安全に安心して過ごせる様な設計になっている。トイレ、浴室、個人の部屋が認識できる様工夫している。安全に生活できるように共有部分の整理整頓に気を配っている。	基本的に高齢者が安全に安心して過ごせる様な設計になっている。トイレ、浴室、個人の部屋が認識できる様工夫している。安全に生活できるように共有部分の整理整頓に気を配っている。		